



## 韓信の一飯千金 (史記の中の千金②)

5月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2022年5月11日(水)

淮陰侯韓信は、淮陰の人である。

暮らしを立てることもできず、南昌の亭長(部落長)の好意にすがっていたが、亭長の妻はうるさがり、朝食も与えなかったので、腹を立てて出て行った。

韓信が淮陰の城壁の下で釣りをしていると、綿打ちをしていた婆さんが、数十日間彼に飯を食わしてやった。韓信は「きっと、お婆さんにお礼をするからな」と言ったが、婆さんは「お礼なんてあてにしないよ」と言った。

淮陰の屠殺業をしている若者が韓信をからかった。

「大きな図体で、剣をぶら下げているが、本当は、臆病者だろう」。

大勢の中で恥をかかせて、「おい、お前、俺の股の下をくぐれ」とすごんだ。すると韓信は彼をしげしげと見つめた後、頭を下げ、彼の股の下をくぐって這い出た。盛り場の人が笑いはやし、皆、韓信は臆病者だと思った。

韓信は、楚の「項羽」の配下となり、度々策略を進言したが、項羽は取り上げなかった。韓信はその後、「漢の高祖」に帰属した。

高祖からも認められなかったが、高祖第一の臣「蕭何」と度々語り合い、蕭何は韓信を高く評価して、高祖に言った。

「韓信のような人物は国家的な人材で二人とおりません。「**国士無双**」と言うべきです。いつまでも漢中の王で満足するなら、韓信は必要ないでしょうが、**天下を争う決意ならば、韓信を用いるべきです。**」

高祖は韓信を将軍の中の「**大将に任命**」し、任命式も行った。

後日、高祖は固陵で苦戦に陥った時、**張良の計略**を用い、韓信を召し寄せた。

韓信の兵は「**垓下の戦い**」に加わり、**項羽を下し、高祖は天下を取った。**

対楚戦争中、韓信の軍は、楚についていた20数万の趙軍を破った。この時韓信は、「**死地から生還する戦術**」を取り、味方の軍を、河を背にして布陣して大勝した。将軍たちが、戦勝の祝いを述べに来て、韓信に質問した。

「兵法には、「**山や丘を右と背にし、川や沼沢を前と左にせよ**」とあります。なのに、この度の戦いで、大将は私たちに命じて、あべこべに河を背にした陣がまえをさせました。ところがなんとそれでこんなにも大勝しました。これは**どういう戦術**でしょうか？」

韓信は笑いながら、「**兵法には死地に陥れられて初めて生き、亡地に置かれて初めて存する**」というのではないか。

だから死地において生きるために、**背水の陣**を敷き兵士たち各自に危機感を自覚させたのだ。

漢の五年(前 202 年)正月、韓信は楚王として故郷に帰った。

韓信は領国に着くと、昔食事をくれた綿打ちの老婆を召し出し、千金を授けた。さらに南昌の亭長夫婦を召し出し、百錢を授けて言った。

「心の小さい人たちだ。人に目をかけたのに、しまいまで面倒を見てやることはなかった」。

また、自分に恥をかかせて、股をくぐらせた男を召し出して、楚の中尉にとりたててやり、將軍や大臣たちに向かって言った。「これは立派な男だよ。わしに恥をかかせおった。あの時、こいつを殺せなかった。殺しても名があがるものではない。だから我慢してこれまでに成ったのだ。」

参照：史記(淮陰侯列伝)、司馬遷史記(徳間書店)